

石狩川水系雨竜川河川整備計画 公聴会

日 時：令和4年7月6日（水） 18：00～18：30

場 所：深川市多度志コミュニティセンター 2階ふれあいホール

公述人：■■■■氏（沼田町、男性、農家、50代）

■議事要旨

- 適切な公共事業が実施されることにより、より災害に強い地域づくりがなされていくと考えている。例えば、雨竜川流域の田んぼの畔を嵩上げすれば多くの水を貯留できる。
- しかし、5年間水田に水を張らずに、転作して作物を栽培した場合、6年目からは「水田としての機能を持たない」ということで交付金が配分されない。これは、耕作放棄につながるほか、田んぼダムとしての機能が失われ、流域治水の考え方に逆行している。堤防の整備と併せて、水田の区画整備や畔の嵩上げを積極的に推奨していくことで、流域治水につながると考えている。
- 堤防工事を実施する事は反対ではないが、流れが逆に良くなり流速が早くなる弊害がないのか危惧している。
- 水位が上がると排水等を通じて雨竜川から離れた内陸から水が上がってくる。昭和63年の沼田の大水害の時に、どちらかというとは街側の高台の方が水がついている状況もあり、雨竜川の整備により解決するのか疑問がある。
- 雨竜川では「ヌマタナガスクジラ」というクジラの化石が発見されており、他にも何が埋まっているのか分からないので、このような有望な地域資源が失われないよう配慮してほしい。
- 雨竜川では天然記念物のオジロワシが営巣しているが、河道掘削等で木々が伐採されていくと当然その巣は二度と戻ってこない。
- これらを踏まえ、貴重な資源、自然等に負荷をかけるよりは遊水地のように自然と一体になって、わざとオーバーフローさせるような治水を検討してはどうか。
河道掘削はダメとは考えていないが、メリハリを付けて慎重に検討して頂きたい。
- ゼロカーボンの内容を変更点に盛り込んでいる部分は評価したいが、河道掘削等で伐採した後に植樹しないと、ゼロカーボンに逆行しているように思う。
- 流域治水の考え方に沿って雨竜川流域を守って頂きたい。